

参 考 資 料

地区研究会の活動紹介

Introduction to the activities of the Regional Associations for Laboratory Animal Science

わが国には現在 11 の地区研究会があり、独自の活動が展開されています。本報では、各地区研究会の間での情報交換、交流などを意図して、平成 29 年度の活動について北から順に紹介します。なお、会長、事務局担当者及び講演者、話題提供者の方々のお名前は敬称を省略させていただきました。詳細な内容をご希望の方は各地区研究会の事務局にお問い合わせ下さい。

Summary

There are eleven Regional Associations for Laboratory Animal Science in Japan, and each of them conducts independent activities. The present paper introduces the activities of the Regional Associations in 2017 to promote information exchange and interaction among them, starting from those of the northernmost association. In the paper, honorifics for the staff of the office, lecturers, and people who provided us with information on topics have been omitted. For the details, please contact the office of each Regional Association.

北海道実験動物研究会

Hokkaido Association for Laboratory Animal Sciences (HALAS)

会長：有川二郎(北海道大学大学院医学研究科)

ホームページ：ただいま準備中です。

事務局：〒060-0818 札幌市北 18 条西 9 丁目

北海道大学大学院獣医学研究科

実験動物学教室内 安居院高志

E-mail: agui@vetmed.hokudai.ac.jp

TEL/FAX: 011-706-5106

第 14 回研究会総会・学術集会 2017

平成 29 年 7 月 8 日(土)、東京農業大学生物産業学部(網走市)

【若手奨励賞大賞演題】

- ①マウスにおけるマラリア感染に対するビタミン E 誘導体の有用性の検証 ○久米愛子ら(帯広畜産大学・原虫病研究センター・ゲノム機能学分野、エーザイ(株) エーザイ・ジャパン CJ 部 ビタミン E 情報グループ)
- ②凍結融解イヌ卵巣組織の異種移植における高圧酸素療法での卵胞数減少抑制効果
○若狭一紅ら(帯広畜産大学・原虫病研究センター・ゲノム機能学分野)

【一般講演 I】

- ①NAK/Nokh ラットの小眼球症に関与する遺伝子群の変異解析 ○古屋薫実ら(東京農業大学生物産業学部、同生物資源ゲノム解析センター、東京都医学総合研究所)
- ②*Pde6b^{rd1}* が水晶体に及ぼす遺伝子発現プロファイルの変化 ○古郡真宗ら(東京農業大学生物産業学部、東京都医学総合研究所)

- ③ヒト狼瘡動物モデル NZB/W F1 マウスの発症における Death receptor 6 の関与 ○藤倉大輔ら(旭川医科大学教育研究推進センター動物実験技術支援部門、北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター感染・免疫部門、同遺伝子病制御研究所分子免疫分野)

【一般講演 II】

- ④マウス飼育室で発生したネズミアメーバ汚染について ○中村一郎ら(北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター、(株)ホクド一)
- ⑤サケ鼻軟骨由来プロテオグカンが EGF 受容体のリン酸化を介してマウスの加齢胚の細胞増殖を更新する ○下井 岳ら(東京農業大学生物産業学部、地方独立行政法人青森県産業技術センター・弘前地域研究所、同八戸地域研究所)
- ⑥成人 T 細胞白血病(ATL)モデルマウスにおけるタモキシフェンの効果 長野佑祐・○大杉剛生ら(酪農学園大学獣医学類実験動物学ユニット)

【特別講演】

マウス卵子形成を再現する *in vitro* 系の開発 尾畑弥生(東京農業大学生命科学部バイオサイエンス科)

<賛助会員アワー(協力:オリエンタル酵母工業(株) 会員枠)>

株式会社東京農大バイオインダストリーにおけるエミュー事業の展開 平岡幸信ら(株東京農大バイオインダストリー、東京農業大学生物産業学部・食品香粧学科)

【平成 29 年度若手奨励賞】

受賞者 久米愛子 受賞演題 (上記)

東北動物実験研究会

Tohoku Research Association for Animal Experiments
 会長：三好一郎（東北大学大学院医学研究科）
 ホームページ：
<http://www.med.akita-u.ac.jp/~doubutu/tohoku/tohoku.html>
 事務局：〒980-8575 仙台市青葉区星稜町 2-1
 東北大学大学院医学系研究科附属
 動物実験施設内 小関陽子
 E-mail:voko-k@med.tohoku.ac.jp
 TEL:022-717-8175、FAX:022-717-8180

第 28 回研究会

平成 29 年 11 月 17 日(金)、東北大学医学部
 開設百周年記念ホール『星稜オーディトリウム』(星稜会館 2 階)

主催：東北動物実験研究会、共催：日本実験動物技術者協会奥羽・東北支部、後援：国立大学法人 東北大学、主管：国立大学法人 東北大学大学院医学系研究科附属動物実験施設

【講演 I】「ゲノミクスの最近の流れ -動物実験に如何に使用するか-」北村 浩(酪農学園大学獣医学群獣医学類獣医生理学ユニット)

【講演 II】“日本実験動物技術者協会 第 397 回本部共催講演会”

「CRISPR/Cas システムを用いた効率的遺伝子改変マウスの作製とその応用」岡村匡史(国立国際医療研究センター研究所動物実験施設)

【講演 III】「これまでの味覚研究の進歩について～味覚はどこまで解明されつつあるか～」石田雄介(東北医科薬科大学医学部解剖学教室)

【情報提供】「精管結紮動物を用いない方法より作製した、マウス(IVCS 系)、ラット(Wistar-Imamichi 系)の偽妊娠動物の提供」阿部寿幸(一般財団法人動物繁殖研究所)

筑波実験動物研究会

Tsukuba Association for Laboratory Animal Science
 会長：杉山文博（筑波大学医学医療系）
 ホームページ：
<https://www.talas.jp/archives/event/>
 事務局：〒315-0138 茨城県石岡市上林 955
 日本チャールス・リバー(株)
 モニタリングセンター内 西田 浩
 E-mail:office@talas.jp
 TEL:0299-44-1691、FAX:0299-44-1692

第 25 回研究会総会・第 53 回講演会

平成 29 年 6 月 9 日(金)、文部科学省 研究交流センター 2 階 国際会議場

【シンポジウム】『特殊モデルマウスの微生物学的統御』

「無菌マウスの飼育管理と作成方法」理化学研究所 横浜事業所 長谷川孝徳

「実中研における重度免疫不全マウスの飼育・実験環境の紹介」(実験動物中央研究所 小倉智幸

「特殊モデルマウスの微生物学的検査」日本チャールス・リバー(株)モニタリングセンター 西田 浩

【法人会員展示】

【特別講演】「“CAR パチルス” はグラム陽性菌ではありません!学名は *Filobacterium rodentium*」理化学研究所 バイオリソースセンター 池 郁生

【教育講演：動物倫理・福祉シリーズ(受講証明書発行講演)】「動物福祉・倫理とメディア」(株)毎日新聞社 編集委員 永山悦子

第 29 回筑波実験動物研究会 技術講習・交流会

平成 29 年 10 月 6 日(金)10:00～18:00

筑波大学生命科学動物資源センター

受講料:10,000 円(昼食代含む)、非会員は

当日 1,000 円の入会費もお支払い願います。講師:辻井 弘・水野正仁(アステラスリサーチテクノロジー(株))

講義内容:講習会オリエンテーション、実技:飼育管理(個体識別、性別判定、症状観察)動物の取扱い(処置馴化、保定)、実験手技(投与、採血、麻酔(麻酔深度確認含))、解剖等、自由討論、修了証授与など

第 6 回実験動物科学シンポジウム

テーマ: 宇宙における動物実験

主催:(公社)日本実験動物学会/筑波実験動物研究会 協力:宇宙航空研究開発機構

平成 29 年 12 月 1 日(金)、文部科学省 研究交流センター (つくば市)

【特別講演】

「国際宇宙ステーションでのミッションについて」大西卓哉(宇宙航空研究開発機構 宇宙飛行士)

【講演[第 1 部]】

「きぼうを用いた生命科学研究の現状」白川正輝(宇宙航空研究開発機構)

「マウスを用いた宇宙環境応答の網羅的解析」高橋 智(筑波大学生命科学動物資源センター)

【講演[第 2 部]】

「宇宙環境における健康管理に向けた免疫・腸内環境の統合評価」加藤 完(理化学研究所 統合生命科学研究センター)

「メダカを用いた微小重力下における骨重減少メカニズムの解明」工藤 明(東京工業大学/昭和大学)

「筋維持・萎縮寄稿の研究:宇宙から学ぶこと」瀬原淳子(京都大学 ウイルス・再生医学研究所)

北陸実験動物研究会

Hokuriku Laboratory Animal Research Association

会長: 山本 博(富山大学生命科学先端研究センター動物実験施設)

ホームページ:

<http://kiea.w3.kanazawa-u.ac.jp/lara>

事務局: 〒920-8640 金沢市宝町 13-1

金沢大学学際科学実験センター
実験動物研究施設内 橋本憲佳

E-mail: lara-info@kiea.m.kanazawa-u.ac.jp

TEL: 076-265-2461、FAX: 076-234-4240

第 21 回総会・第 55 回研究会(金沢大)

平成 29 年 7 月 15 日(土)、金沢大学アイソトープ総合研究施設・1 階会議室

【特別講演 1】「感覚器系—臭覚系および網膜—における社会性ペプチド・バソプレシンの働き」横浜市立大学・視覚再生医療研究、金沢大学子どものこころの発達研究センター 辻 隆宏

【特別講演 2】「雌性動物を用いた実験について—雌ラットにおけるホルモンの影響—」福井大学ライフサイエンス支援センター生物資源部門 村田拓也

信州実験動物研究会

Shinshu Experimental Animal Research Association

会長: 松本清司(信州大学基盤研究支援センター動物実験支援部門)

ホームページ:

<http://shinshuanimal.umin.ne.jp/>

事務局: 〒396-0025 長野県伊那市荒井 3052-1 北山ラベス(株) 事業部 北條佳昭

E-mail: hojo.yoshiaki@nisshin.com

TEL: 0265-78-8115、FAX: 0265-78-8885

第 37 回研究会総会・第 85 回勉強会・第 35 回研究発表会

2017 年 3 月 3 日(金)、信州大学農学部 26 番講義室

第 85 回勉強会

「遺伝子改変ウサギの開発と応用」山梨大学医学部分子病理学講座 範 江林

第 35 回研究発表会

①「新型活動量計 nano tag を用いた馴化検討実験」信州大学 基盤研究支援センター

②「ウサギ生産場における環境エンリッチメントへの取り組み」北山ラベス 箕輪生産場

③「酵素法試薬を用いたマウス HbA1c 測定の基礎検討」(株)イナリサーチ

④「高血圧自然発症ラットにおける経口摂取アセチルコリンの降圧メカニズムの解明」信州大学農学部

⑤「卵巣における FXR (Farnesoid X Receptor) の機能解析」信州大学農学部

⑥「セブラフィッシュの飼育環境の検討」キッセイ薬品講義用(株)

⑦「遺伝背景の違いによる Chst14 遺伝子欠損マウスの出生率の違い」信州大学基盤研究支援センター

第 86 回勉強会

平成 29 年 11 月 10 日(金)、信州大学 松本旭キャンパス 旭総合研究棟 9 階 講義室 C

【講演①】「動脈硬化モデルについて」森崎邦彦(日本チャールス・リバー(株))

【講演②】「非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の臨床と動物モデル」田中直樹(信州大学大学院医学研究科 代謝制御学)

○信州実験動物研究会報 No. 64 2017 年 3 月発行

静岡実験動物研究会

Shizuoka Experimental Animal Research Association

会長: 石川智久(静岡県立大学薬学部)

ホームページ: <http://www1a.biglobe.ne.jp/shizudou/>

事務局: 〒437-1213 静岡県磐田市塩新田 582-2 (公財)食品農医薬品安全性評価センター 竹原 広

E-mail: hiroschi@anpyo.or.jp

TEL: 0538-58-3572、FAX: 0538-58-3586

第 47 回総会・第 45 回研究発表会

平成 29 年 9 月 29 日(金)、静岡県男女共同参画センター(あざれあ)6F 大ホール
大会担当幹事: アステラス製薬(株)

第 47 回総会

【特別講演 1】

人と動物のあるべき関係とは—動物福祉の考え方を深化させる— 伊勢田哲治(京都大学文学研究科)

第 45 回研究発表会

【研究発表会(1)】

演題 1. SD 系ラットを用いた皮膚光毒性評価系の確立と一般毒性試験への組み込みの試み 米澤 豊ら(科研製薬(株) 新薬創生センター薬物動態・安全性部)

演題 2. 体外式ジャケットテレメトリー (JET)を用いたビーグル犬の呼吸器機能評価に関する検討 杉本恭平ら(株ボゾリサーチセンター函南研究所)

演題 3. 大動脈縮窄術を用いた心不全モデルマウスにおいて、クルクミン類似体 Y030 は強力に心不全の進展を抑制した 清水果奈ら(静岡県立大大学院薬学研究院分子病態学教室/京都医療センター 臨床研究センター静岡県立総合病院 臨床研究部、秋田大医学系研究科 臨床腫瘍学講座)

演題 4. Nobiletin 非晶質固体分散体開発におけるケーススタディ: Potassium oxonate 誘導性高尿酸血症モデルラットの評価法の影響 佐藤秀行ら(静岡県立大学薬学部薬物動態学分野)

演題 5. 既設イヌ床網を活用した簡易的な指趾負担軽減策に関する検討 本田恭子ら(株ジェー・エー・シー、アステラス製薬(株) 製剤研究所)

演題 6. イヌの環境エンリッチメントの導入検討 磯部剛仁ら(中外製薬(株) 研究本部、(株)ケー・エー・シー)

【研究発表会(2)】

演題 7. 平滑筋を用いたアシル化ブテノリド誘導体の生物活性機序の解明 木村有希ら(静岡県立大学薬学部薬理学)

演題 8. 実験的精巢性テラトーマの形成に関わる候補領域の同定 宮寄岳大ら(静岡大学創造科学技術大学院、浜松医科大学医学部附属動物実験施設)

演題 9. ウサギの多頭飼育の検討 柴田大樹ら(株ジェー・エー・シー、協和発酵キリン(株)富士リサーチパーク 施設管理グループ、同 東京リサーチパーク 施設管理グループ)

演題 10. アステラス製薬(株)焼津製剤研究センター動物施設でのイヌの群飼育におけるファイティング発生の傾向 櫻井翔一ら(株ジェー・エー・シー、アステラス製薬(株) 製剤研究所)

演題 11. コモンマーマセットと飼育担当者の社会的コミュニケーションの検討 関谷浩司ら(協和発酵キリン(株) 富士リサーチパーク施設管理グループ、同 東京リサーチパーク施設管理グループ、同 富士リ

サーチパーク 創薬基盤研究所)
< 器材企業展示 > 出展企業 8 社
○ニューズレター No.16 2017 年 5 月 19 日発行

東海実験動物研究会

Tokai Association for Laboratory Animal Science
会長: 三好一郎 (名古屋市立大院医・実験動物研究教育センター)

ホームページ: http://www.med.nagoya-cu.jp/animal.dir/animalweb/tokai/tokai_index.html

事務局: 〒501-1194 岐阜市柳戸 1-1
岐阜大学生命科学総合研究支援センター動物実験分野 二上英樹
E-mail: nikami@gifu-u.ac.jp
TEL: 058-230-6609, FAX: 058-230-6044

第 89 回研究会の開催を予定していたが、諸般の事情により、次年度(平成 30 年)に開催することになっている。

関西実験動物研究会

Hansai Laboratory Animal Research Association
会長: 近藤 玄 (京都大学ウイルス・再生医科学研究所 統合生体プロセス分野内)

ホームページ: <http://www.klara.umin.ne.jp/index.html>
事務局: 〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53

京都大学ウイルス・再生医科学研究所 統合生体プロセス分野内
山本恵津子

E-mail: kansai_jm@infront.kyoto-u.ac.jp
TEL: 075-751-4860, FAX: 075-751-4862
(平成 29 年 4 月 1 日から事務局移転)

第 133 回研究会

平成 29 年 3 月 3 日(木)、京都大学楽友会館 2 階 会議・講演室
テーマ: 実験動物学のこれからーマウスとラットを例にー
< 講演 >

1. 焦点性転換原因遺伝子、DEDCS K0 ラットの解析 石田紗恵子(東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子神経科学分野)
2. マウス表現型解析情報を正しく伝えるために 若菜茂晴(理化学研究所バイオリソースセンター マウス表現型解析開発チーム)

<維持会員ニュース>

「CRISPR/Cas9 を用いた遺伝子改変動物作製とその周辺サービス」(株)ケー・エー・シー

第 134 回研究会

平成 29 年 6 月 9 日(金)、滋賀医科大学 臨床講義室 2

テーマ:インフルエンザウイルスの最新情報

<講演>

1. 疫学「インフルエンザウイルスの宿主間伝播メカニズム」 堀本泰介(東京大学大学院農学研究科・獣医微生物学研究室)
2. 創薬「ファビピラビル(T-705)の開発に関して」 古田要介(富山化学工業(株) 事業開発部)
3. 滋賀医科大学・動物生命科学研究センターにおける感染動物実験施設(特にサルを用いた)施設の運用 土屋英明(滋賀医科大学・動物生命科学研究センター)

<トピックス>

「実験動物と痛み」 小山的なつ(滋賀医科大学 総合臓器生理学部門)

<維持会員ニュース>

「日精バイリス(株)が飼育する動物とそれらを用いた各種試験の紹介」 甲藤雅彦(日精バイリス(株))

第 135 回研究会・日本実験動物技術者協会 関西支部合同大会

平成 29 年 9 月 9 日(土)、大阪大学医学部 医学科講義棟 1 階 A 講堂

<講演>

1. 自分の心、分かりますか? - 動物におけるメタ認知研究- 中村哲之(東洋学園大学 人間科学部)
2. 動物の視知覚を探る 牛谷智一(千葉大学 大学院尋問科学研究院)
3. 動物の心に配慮した飼育法: ラットの場合 清川泰志(東京大学 大学院農学生命科学研究科)
4. メダカの個体認知を介した配偶者選択とその分子神経基盤 竹内秀明(岡山大学 大学院自然科学研究科)

<維持会員ニュース>

ミニブタ新施設「彩都ラボ」の竣工について - 新施設って大変 有限会社 浜口動物 日本実験動物技術者協会 関西支部

第 136 回研究会

平成 29 年 12 月 1 日(金)、京都大学楽友会館

<一般講演>

(会員の発表 15 題)

1. マウスの亜系統差が生殖腺に及ぼす影響の遺伝学的研究 ○三浦由香ら(神大院・農

・動物分子形態学)

2. マウス精子成熟における遺伝的背景の影響について ○渡邊仁美ら(京大・ウイルス・再生研・総合生体プロセス)
3. CRISPR/Cas9 を利用した遺伝子編集マウス作製実績 ○宮地 均ら(京大・ウイルス・再生研、京大・院・医学研究科)
4. エレクトロポレーションと凍結胚を用いたゲノム編集マウスの作出 ○卯野善弘ら(阪大院・医・附属動物実験施設、共同研・ゲノム編集センター)
5. 骨格形成におけるヒストン H3 リジン 27 (K27) 脱メチル化酵素の機能 ○成瀬智恵ら(京大院・医・動物実験施設、金沢大・学際セ・遺伝子改変動物、理研 BRC・マウス表現型解析開発チーム、阪大・微研・遺伝情報実験センター)
6. ラクトシルセラミド合成に関わるガラクトース転移酵素群欠損マウスの中樞神経系の組織学的解析 ○吉原 亨ら(京大院・医・動物実験施設、金沢医科大学分子細胞携帯科学、金沢大学学際科学実験センター、九州大学農学研究院、中部大学生命健康科学部)
7. 癌型 *K-ras*・*p53*^{-/-} 多形型横紋筋肉腫(pRMS)細胞株の樹立 ○齋藤浩充ら(三重大・地域イノベーション推進機構・先端科学研究支援センター・動物機能ゲノミックス)
8. 抗生剤投与による *Pasteurella pneumolytica* の除染 ○坂本 匠ら(阪大・医・附属動物実験施設)
9. 肥満糖尿病における膵島機能障害の機序-ZFDM ラットを用いた検討- ○横井伯英ら(神戸大院・医・分子代謝医学、関西電力医学研究所、愛知医科大・糖尿病内科、星野試験動物飼育所)
10. WHLM1 ウサギにおける冠動脈病変の進行に関わる血漿マーカー ○塩見雅志ら(神戸大・医・動物実験施設、九州大・生体防御医学研・トランスオミクス医学研究センター、神戸大学・医・立証検査医学分野、神戸大・医・疫学分野、神戸大・医・循環器内科学分野)
11. Phf24-K0 ラットにおける遺伝子発現プロファイル-Noda Epileptic Rat の原因遺伝子座領域を標的にして- ○芹川忠夫ら(京都疾患モデル研、大阪薬科大、京大、岩手大、広島大、大阪大、渚クリニック)
12. カナバン病モデル Aspa ノックアウトラットの病態解析 ○星合里香ら(大阪府立大・獣医病理学教室、京大院・動物実験施

- 設)
13. 遺伝性ミエリン変性モデル VF ラットの病態および原因遺伝子 *Dopey1* の機能解析
○安井 彩ら (大阪府立大・獣医病理学教室、京大院・動物実験施設、大阪府立大・栄養療法学)
 14. SK2 チャネル遺伝子にミス扇子変異を持つ振戦ラット ○庫本高志ら (京大院・医・動物実験施設、大薬大・薬品作用、京大院・薬、阪大院・医・動物実験施設、大府大・獣医病理)
 15. *Hcn1* ノックアウトラットの運動機能の評価 ○西谷あい ら (京都大・医・附属動物実験施設、日本エスエルシー、広島大・院・理学研究科)

<特別発言>

Ten years' experiences of IACUC in SNUH LEE, Kook Hyun (李 國賢) (韓国ソウル大学病院 九州大学病院)

<トピックス>

実験動物飼養保管基準解説書の概要 八神健一 (筑波大・医学医療系)

<特別講演-1>

感染症研究の過去、現在、未来 喜多正和 (京都府立医大院・医・実験動物センター)

<特別講演-2>

ゲノム編集技術の進展をキャッチアップ?
竹田潤二 (大阪大・医学研究科・ゲノム生物学)

○関西実験動物研究会報 39号 平成29年12月発行

岡山実験動物研究会

Okayama Association for Laboratory Animal Science

会長：国枝哲夫 (岡山大学大学院環境生命科学研究科)

ホームページ：http://okayamexpanim.sharepoint.com/Pages/default.aspx

事務局：〒700-8530 岡山市北区津島中 1-1-1
岡山大学大学院環境生命科学研究科
・農学部動物遺伝学教室気付

E-mail: tkunieda@okayama-u.ac.jp

E-mail: ksato@cc.okayama-u.ac.jp

TEL: 086-251-8314、FAX: 086-251-8388

第73回研究会例会

平成29年7月7日(金)、岡山大学農学部第3講義室

世話役：松山 誠先生 (重井医学研究所)

<一般講演>

1. コーヒー香気の抗鼻炎作用と豆の種類によ

- る作用の差異 ○辻本まどから (ノートルダム清心女子大学大学院・人間生活学研究科・食品栄養学)
2. マクロファージが分泌する細胞外小胞は乳酸菌の抗肥満効果を媒介する 伊藤洋平ら (岡山大院・環境生命科学科、北海道大学院農学研究科)
 3. ニワトリにおける遅羽性 *K* 遺伝子の作用メカニズムの解析 岡村彩子ら (岡山大・理・生物、岡山大・院・自然科学、広島大・院・生物圏科学)
 4. 受精後のDNAメチル化リプログラミングにおける種間差異 澤田友季乃ら (岡山大学大学院環境生命科学研究科動物生殖細胞工学)
 5. ラット隆起部におけるニューロメジン U の発現とその制御メカニズム 相澤清香ら (岡山大学大学院自然科学研究科地球生命物質科学専攻・理学部生物学科)
 6. 細胞周期と細胞極性のクロストーカー分裂酵母を用いた基礎研究から腎障害モデルマウスを用いた医学研究までー 古家野孝行 (重井医学研究所 分子遺伝部門、The Francis Crick Institute, Cell Regulation Laboratory)
- <特別講演>
冬眠する哺乳類シリアンハムスターに学ぶ、冬眠可能な生体状態とは？ 山口良文先 (東京大学 大学院薬学系研究科 遺伝学教室)

第74回研究会例会

平成29年11月17日(金)、加計学園50周年記念ホール(岡山理科大学)

世話役：愛甲博美先生・目加田和之先生 (岡山理科大学理学部)

※講師のご都合で、記念講演1が最初に行われた。

<記念講演1>

マウス視床下部・下垂体・生殖腺系における転写因子 Runx3 の役割 高橋純夫先生 (岡山大学大学院自然科学研究科地球生命物質科学専攻)

<特別講演>

ニワトリコクシジウム症：アイメリア・テネラ感染メカニズムの解明に向けて 畑生俊光先生 (岡山大学大学院環境生命科学研究科農生命科学専攻動物生理学)

<記念講演2>

生体内水銀の体外排泄に関する研究

愛甲博美先生 (岡山理科大学理学部動物学科)

○岡山実験動物研究会報 第33号 2017年4月発行

九州実験動物研究会

Kyushu Experimental Animal Research Association

会長：小野悦郎（九州大学大学院医学研究院
附属ヒト疾患モデル研究センター）

ホームページ：

<http://www.kyujitsuken.sakura.ne.jp/index.html>

事務局：〒849-0938 佐賀市鍋島 5-1-1
佐賀大学総合分析実験センター
生物資源開発部門 北嶋修司
E-mail: kitajims@cc.saga-u.ac.jp
TEL: 0952-34-2430, FAX: 0952-34-2024

第 34 回九州実験動物研究会総会

第 36 回日本実験動物技術者協会九州支部 研究発表会合同開催

平成 29 年 11 月 11 日(土)～12 日(日)
陽子線治療センター 指宿ベイヒルズ
HOTEL & SPA 大会議室(3 階)

11 月 11 日(土)

賛助会員トピックス

2016 年 2 月発売の実験動物用翼付採血針及
び動物用保定器のご紹介
池田恒雄(日本クレア)

一般演題 (九実研)

1. ヨーロッパモリネズミコロニーから見出された運動障害個体の基礎及び病態の解析
○枝村仁美ら(宮崎大学フロンティア科学
実験総合センター、宮崎大学大学院医学
獣医学総合研究科、九州大学大学院医学研
究院附属ヒト疾患モデル研究センター
動物実験施設、宮崎大学農学部獣医学科)
2. 人為的交尾刺激による偽妊娠誘起ラットの
評価② ○中村浩敏ら(アーク・リソース
株、一般財団法人 動物繁殖研究所)
3. ウサギ精子の凍結保存における大豆由来分
別レシチンの有用性について
○松尾 完ら(佐賀大学総合分析実験センタ
ー、秋田大学バイオサイエンス教育・研究
サポートセンター、福岡女学院看護大学)
4. APP × PS2 ダブルトランスジェニックマ
ウス作製の実際とその問題点について
○田中聖一ら(福岡大学アニマルセンター、
株アニマルケア)
5. ビーグルにおける 7 日間絶食の毒性パラメ
ータへの影響と回復性の検討
○上山智穂理ら(株新日本科学 安全性研究
所)
6. マウス精巣におけるインクレチン受容体の
発現とその作用に関する研究
○林原安里ら(鹿児島大・共同獣医・実験動

物学、鳥取大・農・共同獣医・獣医解剖
学)

7. 削蹄のいないミニブタ用床材の開発
○川口博明ら(鹿児島大学大学院医歯学総
合研究科 衛生学・健康増進医学分野、病理
学分野、熊本県庁)

一般演題 (実技協九州支部)

1. マウス導入時検疫における蟻虫検査法の再
検討 ○藤谷 光ら(長崎大学先端生命科学
研究支援センター 比較動物医学分野(動物
実験施設))
2. 福岡大学アニマルセンター微生物モニタリ
ング定期検査への PCR 法の応用について
○古賀崇男ら(福岡大学アニマルセンター、
株アニマルケア)
3. カニクイザルの尾先端部壊死治療としての
再改良断尾術 ○兒玉暁子ら(株新日本科
学 安全性研究所、株新日本科学 前臨床研
究推進本部)
4. 動物実験におけるヤギの飼養管理の実際
について ○牧 宏信ら(大分大学全学研究推
進機構研究支援分野実験動物部門、大分大
学医学部心臓血管外科学、大分大学医学部
医学科)

九実研及び実技協九州支部 合同特別講演
なぜ「利右衛門」なのか 坪井詳忠(指宿酒
造株)

11 月 12 日(日)

広東省実験動物学会 特別講演

MicroRNA-378 enhance radiation response
of a U87 glioblastoma *in vivo* ectopic
and orthotopic implantation model Wende
Li(李文徳) Guangdong Laboratory
Monitoring Institute(広東省実験動物監測
所)

日常業務の最前線 (実技協九州支部)

5. カニクイザルの腰椎から大槽内への X 線透
視下カテーテル留置による脳脊髄採取法の
確立 ○池田大地ら(株新日本科学 安全性
研究所)

一般演題 (九実研)

8. 宮崎大学において発生したネズミ大腸蟻虫
汚染とイベルメクチン長期噴霧による駆除
効果 ○篠原明男ら(宮崎大学フロンティア
科学実験総合センター)
9. 尿中コルチコステロンを利用したストレス
評価『基準値』設定の試み ○仮屋博敬ら
(アーク・リソース株)
10. 2 回目の外部検証を受審して ○佐加良英
治(兵庫医科大学 動物実験施設)

第 10 回実験動物ジョイントセミナー・イン九

州

2017年11月12日(日)

『動物愛護管理法とそれを取り巻く現状の最新情報について』

1. 動物愛護管理法関連の最新の動きを知り今後どうなるかを考察する 浦野 徹(大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所)

2. 実験動物飼養保管等基準解説書の改正における注目点について 八神健一(筑波大学医療系)

注:本セミナーは、九州実験動物研究会、日本実験動物協働組合九州支部、日本実験動物技術者協会九州支部との共同企画のため、参加はいずれかの会員(賛助会員含む)及び招待者に限定。

11月12日(日)

<第7回若手勉強会>

1. 疾患モデルマウスを用いた関節リウマチの新規治療標的分子の探索(仮) 佐伯法学(愛媛大学 学術支援センター動物実験部門プロテオサイエンスセンター 病態生理解析部門)
2. 精神的ストレスによる血小板機能変化 松久葉一(佐賀大学 総合分析実験センター 生物資源開発部門)

○九州実験動物雑誌 No.33 2017年10月発行

琉球実験動物研究会

Ryukyu Association for Laboratory Animal Science

会長:小杉忠誠(琉球大学名誉教授)

事務局:〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町上原207

琉球大学医学部附属動物実験施設内
上田智之

E-mail:Ueda@med.u-tyukyu.ac.jp

TEL:090-895-1208、FAX:098-895-1441

第25回研究会

沖縄科学技術大学院大学と共催

国際動物福祉シンポジウム(International Symposium for Animal Welfare: ISAW)

January 12 and 13, 2017

OIST(沖縄科学技術大学院大学)

Day 1(January 12)

Keynote Lecture (chaired by Mary Collins)

Ethics and Animal Welfare: Kathryn

Bayne(AAALAC International)

Lunch Break

What a world-wide benchmark for animal

care products and related equipment can do for Animal Welfare Amina Mayu Yamashita (Tecniplast Japan)

Euthanasia (Chaired by Montip Gettayacamin, Makoto Suzuki)

Opening lecture:Leslie Retnam (Biomedical Sciences Institutes)

Towards a Gentle End:Best Practice in Humane Killing for small laboratory animals: Lucy Whitfield (Royal Veterinary College)

Inhaled anesthesia (secondary Method): Yuan-Ji Day (Chang-Gung Memorial Hospital)

Lidocaine Hydrochloride vs MS222 for the Euthanasia of Zebrafish: Chereen Collymore (University of Toronto)

Summary of Euthanasia session: Makoto Suzuki (OIST)

Enrichment (Chaired by Judy MacArthur Clarks)

Environmental Enrichment- the Good, the Bad and the Ugly?: Judy MacArthur Clarks (JMC Consultancy)

Environmental Enrichment for Laboratory Macaques and Marmosets: Bryan Ogden (Duke-NUS Graduate Medical School)

Welfare and Environmental Enrichment for Dogs and Cats: James Serpell (University of Pennsylvania)

Environmental enrichment program for lab rodents---from a pharmaceutical company perspective: William Pang (Sanofi R & D)

Day 2(January 13)

Special Lecture

Connections matter: the importance of socialhousing for enhancing animal health and well-being Brenda MaCowan (UC Davis)

Humane Endpoint (Chair by Yasmina A.

Paramastri and James Swearngen)

Humane Endpoint for Laboratory Animals- The Role of IACUC: Yasmina A. Paramastri (NUS)

Post Approval Monitoring: Purpose and Approaches: James Swearngen (AAALAC)

Identifying the Ideal Experimental Endpoint: Linda Toth (Southern Illinois University)

Gene-modified animals (Production and br): Takashi Agui (Hokkaido University)

Lunch Break

AAALAC International Update and Activities
Related with Animal Welfare Montip
Gettayacamin (AAALAC International)
Closing Lecture (Chaired by Kathryn Bayne)
Animal welfare:ethics, science and the
human dimention David Fraser (The
University of British Columbia)

文責:岡山実験動物研究会事務局
岡山大学農学部動物遺伝学教室気付
現:岡山大学自然生命科学研究支援セン
ター動物資源部門津島南施設
編集担当 佐藤勝紀
E-mail:ksato@cc.okayama-u.ac.jp